

第六方面軍  
 独立混成第八十三旅団  
 独立歩兵第四百九十團大隊  
 略歴

年月日	概要
昭和一九三九年 三二〇	勅令第〇号に依り臨時動員下令 第五野戦師補隊第一大隊編成業務着手 於大阪編成完結
三二四	大隊長陸軍大尉堀田敏太郎以下得次五三名、下士官一六四名、兵三三三名 博多灣出発
三二二	北支那方面軍の戦斗序列に入る
同 月	北支那方面軍の戦斗序列に入る
四三	第十一軍司令官の指揮下に入る
四二五	中軍司令部、片巻馬場陸軍訓練所駐、延岡地区警備
五一〇	北支那方面軍の戦斗序列を脱し支那派遣軍戦斗序列に入り武漢防衛司令官の指揮下に入る
五一五	下士官一五名兵二三七名第四〇師団に転属す
七二四	支那派遣軍の戦斗序列を脱し第三十四軍の戦斗序列に入る
八二八	補充員として第九十二聯隊より兵二五〇名転属編入す
一三一	大隊長陸軍少佐に任ぜらる

昭二〇、三、三五	補充員として第百四師団（鳳）より下士官一名兵二五〇名転属編入す。
二一	昭和二十年軍令陸甲第十八号に依り第五野戦補充隊復帰下令
同	昭和二十年軍令陸甲第十八号に依り短立歩兵第百九十四大隊編成下令
三、一〇	中華民國湖北省陽縣挑鎮に於て復帰並編成完結
	ノ大隊長陸軍少佐鹿田秋太郎以下將校三七名 下士官三三名 兵一〇七四名 之引続き汚陽地区警備
三、二〇	現役兵として兵三〇名現地入隊す
八一四	侍戰詔書発布
八三〇	第二十二師団（原）要員兵二三二名道及不能の爲転属編入す
八、二五	復員下令
九、二	停戦協定締結
九、三	下士官二名兵二六名現地除隊す
一〇、一〇	中華民國湖北省黃陂縣黃陂集結す
昭二、四、二四	内地帰還の爲同地出發す、大隊長以下將校二五名下士官一五一名兵一〇二七名 上海到着
五、三	第一次帰還として陸軍大尉小西清二以下將校三名、下士官三五名、兵三一三名 乗船す
五、九	
五、一〇	主力は南吳松寿三兵站勤務を引継ぎ服務す

七三	第二次帰還として寺西曹長以下一回四名乗船帰還す
七四	第三次帰還として神戸大尉以下一回二名乗船帰還す
七四	第三站諸物岳並に設備中国側への接收完了す
七五	部隊主力今里大尉以下五六一名内地帰還の終りバテイ 七号乗船す
同日	大隊長堀田少佐以下二名は中国側の要求により江蘇省上海に残留す
七二五	補償上陸
七二七	川田大尉以下五五九名除隊召集解除復員式挙行 残務整理者
	陸軍大尉 今里 忠 良
	同 車曹 梅 垣 留次郎
八九	復員完結

(99)

0112

独立混成第百八十三旅団  
独立歩兵第百九回大隊

略歴

年月日	編成完結日
昭十九、三、二四	第五野戦補充隊第一大隊として編成完結す（於独立歩兵第百八回大隊補充隊）
昭二〇、二、一	才五野戦補充隊復帰下令
二、一	独立歩兵第百八三旅団独立歩兵第百九回大隊臨時編成下令
三、一〇	復帰並に編成下令
昭一九、三、二一	部隊行動の概要
四、二五	博多港出発其後釜山―浦口―南京―漢口を経て 华中汚北縣仙桃鎮に到着爾後汚北汚南兩縣の警備に任ず
五、三	停戦後引続き同地附近の警備に任じありしも其後湖北省黃波縣黃波附近に集結を命ぜられ
五、十三	黄波に到着す
昭二二、四、二四	内地帰還のため黄波を列車に依り出発、
五、三	上海に到着す
五、十三	主力は上海第三兵站勤務に任じ一部（陸軍大尉小西清二以下三五一名）は内地帰還のため上海出発

(100)

0113

五十九

博多巷に上陸す

(101)

0114

独立歩兵第百九十五大隊履歴表

年月日	経歴
昭二九二二九	第五野戦補充隊勅員下令
三一〇	第五野戦補充隊歩兵第二大隊編成着手
三二四	第五野戦補充隊歩兵第二大隊編成完結 各隊長左記の如く命課さる。
	大隊長 陸軍大尉 田中 眞 文
	第三中隊 陸軍中尉 大野 亨 三郎
	第六中隊 陸軍中尉 酒井 憲之助
	第七中隊 陸軍中尉 坂口 正 三
	第八中隊 陸軍中尉 林 武 夫
	第二機関銃中隊長 陸軍中尉 日野 修 佑
	第二歩兵砲中隊長 陸軍中尉 酒井 秀 岩
三二二	大坂海田駅出発
三二二	博多港出帆同日附を以て華北方面軍の戦斗序列に入る
二四	朝鮮国境安東通過
二六	山海関通過
二八	浦口着

(102)

0115

四 五	南京出帆
六	湖口通過同日第十一軍司令官の指揮下に入る
八	湖北省場子上陸
二五	同日より武漢地区の警備に任ず
五 一	同大隊長以下五五五名が漢口戦に参加
六 一	華北方面軍の戦斗序列を脱し中国派遣軍の戦斗序列に入り武漢防衛軍司令官の指揮下に入る
五 一〇	派遣軍の戦斗序列を脱し第三十四軍の戦斗序列に入る
七 二四	移駐の爲武漢地区出発
十二 四	移駐完了同日より黄陂地区の警備に任ず
十二 一〇	軍令陸甲第十八号に依り第五野戦補充隊退却下令独立混成第八十三旅団独立歩兵第四百九十五大隊隨時編成下令
三 一〇	第五野戦補充隊退却完了時独立混成第八十三旅団独立歩兵第四百九十五大隊編成 完結
	左記の如く各隊長命課さる
	左記
	大隊長 陸軍大尉 用 仲 直 文
	第一中隊 陸軍中尉 大 野 伊三郎

(103)

0116

年月日	概要
四、二〇	大隊長 陸軍少佐に進級
八、一四	停戦詔書発布
九、二五	復員下令
九、二	停戦協定締結
昭二、四、二三	黄陂縣黄陂猫兒山に集結第六戦区第二師官兵管理所の管理に入る
五、一	内地帰還のため湖北省黄陂縣黄陂出發
七、六	上海到着
七、一六	上海出帆
七、一六	浦賀上陸
七、一八	復員式

内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す。

(104)

0117



独立混成第八十三旅団独立歩兵第四九六大隊 略歴

陸軍大尉 野口 清

年月日	概	要
昭二十 二一	縮成完結の状況	
二一	軍令陸甲第十八号に依り第五野戦補充隊復帰下令	
三十一	独立歩兵第四九六大隊臨時編成下令	
三十一	第五野戦補充隊復帰完結	
三十一	独立歩兵第四九六大隊臨時編成完結	
昭十九 二二九	行動ノ概要及其の日時	
三十四	勅第四〇号に依り第五野戦補充隊臨時編成下令	同日より歩兵第六十一聯隊補充隊に於て第五野戦補充隊歩兵第三大隊編成着手
三、二十	臨時編成完結	
四、二十五	中因派遣のため和歌山出発	
昭二十 二一	中華民國湖北省武昌縣武昌着、同地に在りて武漢地区の警備	
二一	軍令陸甲第十八号に依り第五野戦補充隊復帰下令	
三、十	独立歩兵第四九六大隊臨時編成下令	
三、十	第五野戦補充隊復帰完結	
三、十	独立歩兵第四九六大隊臨時編成完結	引続き同地に在りて武漢地区の警備

(105)

0118

以

以

申支その四 )

年月日	昭二六、八、二五 二五、五、十二 二五
概要	復員下令 上海巻出帆 復員完結

(106)

0119

0119

独立歩兵第四百九十七大隊 略歴

年月日	概	要	摘	要
昭二〇、二一〇	独立混成第八十三旅団編成下令			
三〇	独立歩兵第四百九十七大隊編成下令			
	大隊長 陸軍大尉 薄 敦			
	第一中隊長 陸軍中尉 梅 園 秀 次			
	第二	宮 本 茂 樹		
	第三	菅 谷 金 次 郎		
	第四	株 藤 多		
	萩岡鏡中隊長	日 野 修 佑		
	赤兵衛中隊長	蔵 本 一 郎		
	通信隊長	堀 越 一 郎		
三十	武昌周辺に位置し教育並に警備担任			
六、三五	本土兵備要員として菅谷中尉以下三十八名転出す 之に伴い一部編成替			
	第三中隊長 陸軍中尉 蔵 本 憲			
	成岡鏡中隊長	大 木 正 視		
	赤兵衛中隊長	舟 前 大 次		

(107)

0120

年月日	概		要
昭三〇、八、二四	終戦の詔勅下る		
九、二四	黄陂縣新集附近に集結		
九、三〇	右地区に於て中国側に武装解除を受く		
二、四、二四	同第六戦区第二日本官兵管理所に收容		
五、一三	内地帰還の慈黄陂出発汽車輸送（候店―鄭州―徐州―浦口―南京―上海）を以て上海に到着		
五、一九	内地帰還復員の目的を以て上海出発 内地巻灣（博多）に上陸		

(108)

4810

0121

独立歩兵第百九十八大隊 略歴

陸軍大尉 樋口光太

年月日	概 要
昭三〇、三、十	縮成完結の状況
中華民國湖北省漢口市に於て縮成完結	
縮成定員 一千三百二十九名 概 充足	
行動の概要及其の日時	
三十	漢口地区警備隊として漢口及漢陽周辺地区の警備
八十	停戦詔書発布引続き中国側に警備移譲並に邦人保護のため残留
九、二十五	現地に於て中国軍六百八十五師及六百九十九師により武装解除
九、二十七	湖北省黄陂黄陂地区に集結のため移動
九、三十	第六戦区第二日本宮兵管理所に収容
三、四、二四	復員帰還のため黄陂出発
五、九	内地帰還のため上海港出発
五、十六	佐世保港上陸

年月日	概 要
昭十九、二、二八	才五野戦補充隊勅員令
三、十一	才五野戦補充隊下士官は担任部隊たる野砲第四聯隊補充隊に入隊す。同時在隊者の転属あり。
三、十二	才五野砲兵第四聯隊補充隊に入隊す。
三、十五	才五野戦補充隊砲兵隊勅員完結す。
三、十九	部隊長陸軍大尉田中信太郎（本部及一ヶ中隊編成）大阪驛を出発す。
三、二十	門司港を出帆す。
三、二十五	中国山東省青島に到着す。
四、二	本部及中隊の一部は武漢地区漢川附近の警備任務を担立し山砲兵系五十一大隊と交代繼承す。
九、十八	中隊の主力は塩田中隊長以下京漢作戦に参加す。
十二、三十	京漢作戦終了し塩田中隊長以下帰隊す。
昭二十、二、一	部隊の一部は武漢地区対空陣地強化の爲第百五野戦補充隊長の直轄に入らしめらる。
昭二十、二、一	昭和二年軍令陸甲第一八号に依り第百五野戦補充隊砲兵隊復歸下令。

昭二 十三年 十日	同日
二、二六	昭和二十年軍令陸甲第十八号に依り独立混成第八十三旅団砲兵隊臨時編成下令 昭和二十年軍令陸甲第十八号に依る復帰並編成完結、部隊編成別表の一の如し
五、一七	独立混成第八十三旅団砲兵隊長陸軍少佐田中信太郎 独立混成第八十三旅団砲兵隊長一中隊長陸軍中尉堀田徳太郎 独立混成第八十三旅団砲兵隊長二中隊長陸軍中尉森利啓三 部隊の一節は襄樊作戦に参加の越中隊長以下漢川を出発す
六、二二	襄樊作戦終了し帰隊す 第二中隊長陸軍中尉森利啓三 本土兵備要員として内地帰還の越中隊長 田徳太郎を第一中隊長に第一中隊長陸軍少尉藤原彌一を第一中隊長代理に命ず
八、一五	停戦協定成立 湖北省漢川に於て中国第六十六軍第六師に武器資材等接收終る
十、八	湖北省黄陂に移駐、爾後第二日本官兵管理所に入所
十一、一	第二中隊長陸軍中尉井田哲副官を命ず
十一、一四	陸軍中尉藤原彌一、第一中隊長に補す
昭二、 四年、 四月、 二十三日	復員帰還を被命、湖北省横店駅（京漢線）を出発、龐海線、津浦線を經由上海 に向小
五一	上海に到着す
五、九	部隊主力は上海第十回兵站勤務す一部は上陸復興島勤務に服務す

(111)

0124

年月日	概要
昭二五、五十三	部隊の一部（陸軍中尉倭島健吉以下一二二名）は復員帰還の爲上船を出発す
七、五	中国側より上海第十四兵站建造物及軍需品の接收を終了す之より先復興島勤務隊の接收を終了す
七、六	部隊は復員帰還の爲V04号に依り上海を出発す
七、十三	浦賀港に上陸す
七、十五	復員式を興行、夫々除隊（召集解除）後分進帰郷す

本  
 14  
 十  
 五  
 日



第五野戦補充工兵隊 略歴

陸軍少佐 后 術 和 郎

年月日	概	要
昭一九、二、二九	動員下令	
三、一	動員十一日	
三、一四	編成完結	
三、二〇	編成地（高槻市）出発	
三、二二	門司港出帆	
三、二四	青島上陸	
四、九	湖北省長口泉揚子上陸	
自昭五、四、二四	京漢作戦参加（独立歩兵第十一旅団長指揮下）	
至 五、一五		
五、一六	湖桂作戦（才一期）参加（才二十七師団長指揮下）	
七、一二		
七、一三		
二、三〇	占領地区交通作業従事（独立歩兵第十二旅団長指揮下）	
自昭一九、二、一	湖北省武昌泉青山駐屯警備	
至 二〇、三、一〇		

年月日	昭二〇二一 三〇
概	<p>軍令陸甲オ一八号により復讐下令 駐屯地に於て復讐完結 部隊長以下主力は独立混成オ八十三旅団工兵隊に転属</p>
巻	

(14)

0127

独立混成才八十三旅団工兵隊 略歴

陸軍少佐 石 紘 和 郎

年月日	概	要
昭二〇二一 三一〇	軍令陸甲第一八号により臨時編成下令 湖北省武昌県青山に於て編成完結	
自 二〇三三 至 八二四	旧第五野戦補充隊工兵隊を基幹とし之に他隊より転入者を充用す 湖北省武昌県青山駐屯警備	
一〇二二	停戦大詔降下	
一〇二二	武装解除	
昭二二四二四	湖北省黄陂県第六戦区第二日軍官兵管理所へ収容 管理所出発	
四二五	横店―鄭州―徐州―南京―上海	
五三	列車輸送	
五三	上海着	
五一三	上海出帆	
五一九	博多上陸除隊召集解除四四四名 残務整理者四名	

外  
心  
心

	年月日
	概 要

五  
二  
五  
復員完結

(16)

0129

第六方面軍独立混成隊八十三旅団通信隊 略歴

年 月 日	概 要
昭二、二、一	軍令陸甲第十八号に依り第五野戦補充隊（昌武第六〇七〇部隊）中華民国漢口 果漢口に於て独立混成隊八十三旅団通信隊へ至極第一七八三九部隊編成下令 編成完結
三十	第九野戦隊中尉小林利治通信隊長として転入 河線小隊長並に副官として第五野戦補充隊第三大隊より陸軍中尉寺田正夫転入 無線第一小隊長として第五野戦補充隊第三大隊より陸軍少尉熊代義夫転入 無線第二小隊長として第五野戦補充隊第二大隊より陸軍少尉沢田謙吾転入 編成完結後武漢地区警備並に兵団各部隊間の警備防空両通信連絡に任ず 通信隊補充要員として陸軍兵長峯利春以下十八名野砲第四師隊補充隊（中部第 二十七部隊）より到着
七、一	第三十四軍隷下部隊より歩兵通信甲種幹部候補生原佳治郎外十六名の教育を担 任す
八、十四	停戦詔書発布
八、二五	復員下令
九、二	停戦協定締結
九、十四	湖北省黄陂県黄陂に移駐

年月日	概 要
昭二十、一	第六戦区第二日本官兵管理所に入所
昭二十、四、三	武装解除 内地帰還の爲湖北省黄陂県黄陂出发
五、一	上海着
五、十	上海港出帆
五、十五	鹿兒島港上陸
同	陸軍大尉小林利治、陸軍曹長武田总朝、残存整理の爲残留の外除隊召集解除（鹿兒島召集解除二〇三名）
五	復員完結

(1/5)

0131

独立混成第八十四師団司令部 略歴

陸軍少将 中 尾 小 六

年月日	概 要
昭二、三、二十	<p>縮成完結の状況</p> <p>軍令陸中第十八号に依り独立混成第八十四旅団司令部縮成下令と共に第九野戦補充隊本部を基幹とし同日中華民国江西省九江縣九江に於て縮成完結す</p> <p>行動の概要</p> <p>独立混成第八十四旅団縮成完結と共に司令部は中華民国江西省九江縣九江に位置し隷下各部隊を左記の如く配属し江西省に於ける要威厯保警備に任したり</p> <p>独立歩兵第四九九大隊 黄梅地区</p> <p>独立歩兵第五〇〇大隊 茗綠 瑞昌地区</p> <p>独立歩兵第五〇一大隊 大冶 石火蜜地区</p> <p>独立歩兵第五〇二大隊 九江地区</p> <p>独立歩兵第五〇三大隊 陽新地区</p> <p>独立混成第八十四旅団砲兵隊 九江</p> <p>独立混成第八十四旅団工兵隊 九江</p> <p>独立混成第八十四旅団通信隊 九江</p>

(119)

0132

年月日	
昭二、八、十四	中華民國江西省九江縣九江に於て停戦の詔書発布停戦業務に着手
九、十四	中華民國江西省南昌縣南昌に於て南潯地区局地停戦協定成立
十、二十	第十一軍命令並に南潯地区局地協定に基き武登軍需資材を中華民國陸軍新編第三軍に移譲完了
十一、二一	江西省彭澤縣馬樞鎮に移駐集結完了 復員業務に着手す
昭二、五、二三	内地帰還の急江西省彭澤縣彭澤出発
五、二十九	上海到着
六、三十	旅団司令部主力を以て上海出帆
七、一	左世保に上陸す

外  
6



独立混成第八十四旅 師団 陸兵 四四九大隊 略歴

年月日	概	要
昭一九、二、二〇	特務編才三十七号に依り満州国龍江省密拉爾基に於て才九野戦補充隊歩兵才	一大隊編成完了す
二、二六	満州国龍江省密拉爾基出發	
四、二	中華民国湖北省黃梅県黃梅に到着	該地警備を才六十八師團と交替す
二〇、三、二〇	爾後大隊主力は黃梅縣城に位置し長江左岸地区黃梅、左済西界一帯の警備を	担任し併せて戦力物量の蒐集及前線部隊に対する兵力補充を行う
	軍令陸甲才十八号に依り才九野戦補充隊復歸	軍令陸甲才十八号に依り復歸せる才九野戦補充隊歩兵才一大隊を根幹として
	独立混成才八十四旅團独立歩兵才四百九十九大隊は中華民国湖北省黃梅縣に	於て編成を完結す
	一大隊長	陸軍大尉 正七位勲五等功五級 塩谷 鼎
	二 大隊本部	大隊副官 陸軍中尉 常 富 二 男

(121)

0134

ノ内 中文、...

年 月 日	概 要	
昭二〇、三、二〇		<p>四、一</p> <p>大隊附 陸軍中尉 松岡定夫            大隊附 陸軍中尉 木村甚吾            大隊附 陸軍主計少尉 坪村鎮平            大隊附 陸軍經理部見習士官 河村守            大隊附 陸軍軍医中尉 杉山秀            大隊附 陸軍軍医部見習士官 木沢次郎            大隊附 陸軍軍医部見習士官 山本敏夫            中隊長            才一中隊長 陸軍中尉 荻原金藏            才二中隊長 陸軍中尉 細木 薫            才三中隊長 陸軍中尉 武田和夫            才四中隊長 陸軍中尉 窪田一雄            機関銃中隊長 陸軍中尉 笠井辰雄            歩兵砲中隊長 陸軍中尉 島井千秋            通信隊長 陸軍少尉 土肥冬男            大隊は引続き長江左岸黃粉及玄濟地区の警備を担任し併せて戦力物良蒐集に邁進す。            葡独立歩兵才四百九十九大隊附陸軍兵科見習士官 川崎勇</p>

(1.22)

0135

五、一	陸軍中尉 越島政雄 以下四名才三独立警備隊に進出
六、四	陸軍中尉 岡野西男 (賜チブス) のため九江才百七十七兵站病院にて死亡ハ茲 歎息出身 享年二十五才 陸軍大尉 木村甚悟 (賜チブス) のため九江才百七十七兵站病院にて死亡ハ奈 哀泉出身 享年三十八才 陸軍中尉 谷口邦男 以下六名本土兵備要員として出発
六、一四	補独立歩兵才四百九十九大隊附 陸軍獣医師部 見習士官 戸川傳次
六、一九	停戦の詔書発布せられ大隊は一切の作戦行動を停止す
八、一四	警備を挺進才十八縦隊に後譲レ江西省九江に集結
一〇、一七	武装解除九江出発
一〇、二九	江西省彭沢県彭沢に到着爾後復員準備
一〇、三二	補独立歩兵才四百九十九大隊附 陸軍軍医少尉 柳田忠義
一一、三	彭沢出帆
一一、五、二六	上海港出帆
六一五	佐世保港上陸
六、二六	復員電結
七、八	

独立混成第八十四旅団略歴

年月日	概	要
昭二〇、三、二〇	昭和二十年甲令陸甲才一八号	
	独立歩兵才五百大隊 編成下令	
	中華民國江西省武寧景管溪に於て編成完結	
	大隊長 陸軍少佐 山本 博	
	以下將校四二名 準下士官二〇一名 兵九八三名 計一二二六名	
	中華民國江西省武寧景管溪に在りて同地附近の警備並に討伐	
	主要なる討伐作戦	
	德安西方地区討伐	
	武寧北地区討伐	
	武寧泉洋港街附近討伐	
	停戦詔書発布	
	後員下令	
	締款協定締結	

(124)

0137

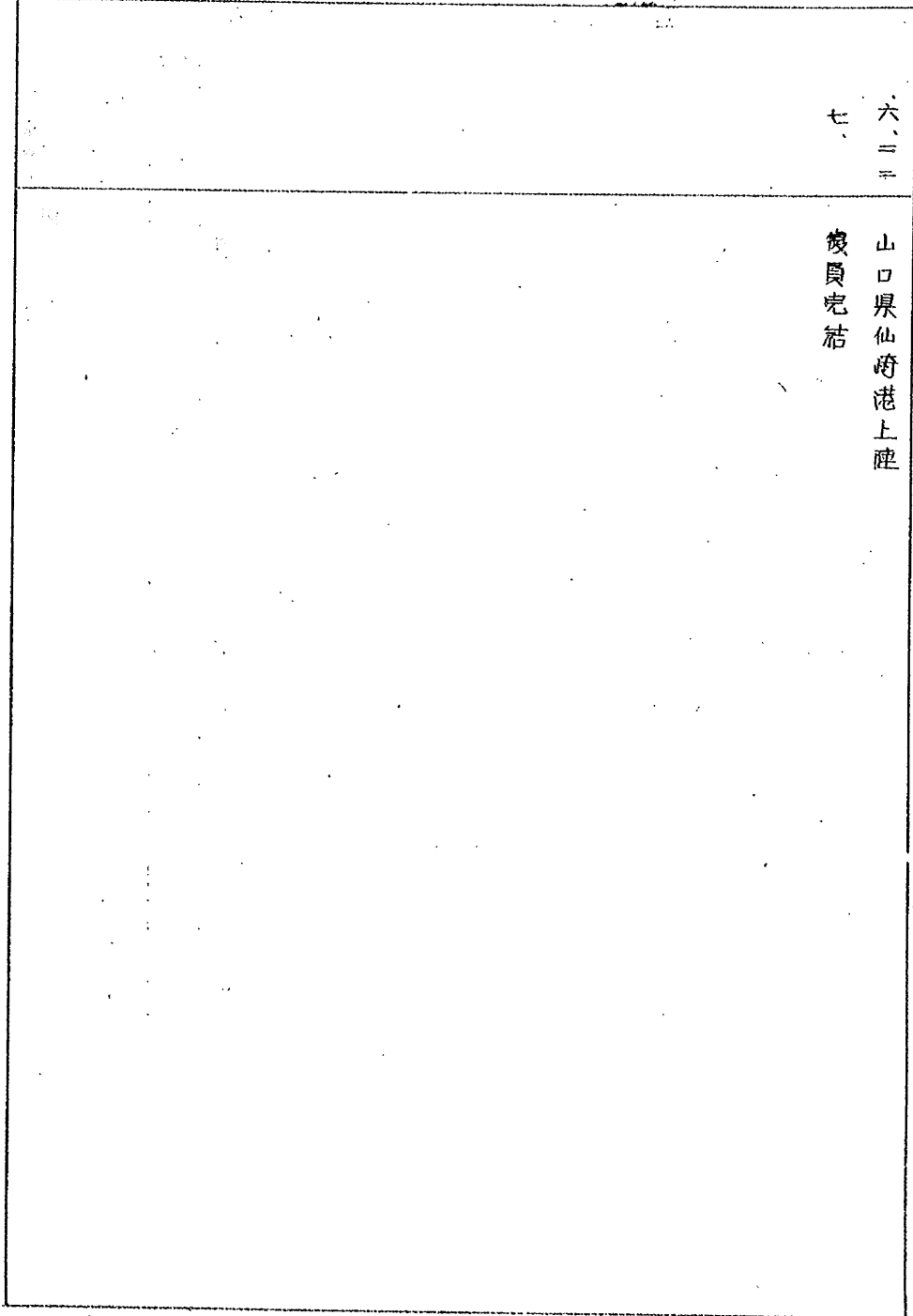
九二一	移駐の乍の中華民國江西省武寧縣潯溪出発
九二二	江西省瑞昌縣瑞昌首
九二六	瑞昌出発
一〇六	中華民國江西省彭澤縣樟鎮着
一一五二三	中華民國江西省彭澤縣樟鎮着
五二五	江西省彭澤縣彭澤出発
五二九	江蘇省上海首
六一五	上海出帆
六二二	福岡縣博多港上座

独立混成第八十四旅團 独立歩兵第五百一大隊略歴

陸軍大尉 江副 孝

年月日	概要
昭二〇、三、二〇	陸令陸甲才十八号独立歩兵才五百一大隊編成下令 編成業務着手
自 三、二〇	中華民國湖北省大冶県大冶に於て編成懇話
至 九、二	大隊長陸軍少佐渡辺小太郎以下將校四七、准士官七、下士官二一八 兵一四一三 計一六八五名
八、一	中華民國湖北省大冶地区警備 此の同警備地区肅正討伐戦大回
八、一四	大隊長陸軍大尉 江副 孝
八、二八	待戦詔書発布
九、二	復員下令
一〇、六	停戦協定締結
一〇、二二	移駐のため湖北省大冶県鉄山鋪出發
一一、二五	江西省彭沢県彭沢着
一一、二五	内地帰還のため彭沢県彭沢出發
大、一六	上海港出帆

之内 中文(三の四)



六二二  
七

山口県仙崎港上陸  
機員完結

(17)

0140

独立混成歩八十四旅団  
独立歩兵第五〇二大隊略歴

陸軍大尉 田中恒信

年月日	概要
昭二〇、三、三〇	軍令陸甲カ一八号に換リカ九野戦補充隊充用
自 三、三〇	獨立歩兵カ五百二大隊編成下令
至 八、一三	編成業務着手
八、一四	於中華民國江西省九江泉九江編成完結
八、一八	中華民國江西省九江附近の警備
九、二	停戦詔書発布
一〇、一	復員下令
一一、五、三三	停戦協定締結
六、三〇	中華民國江西省彭沢県磨盤山移駐
七、一	内地帰還のため磨盤山出発
	上海港出発
	仙崎港上陸



細井連成中八四旅団  
独立歩兵才五百三大隊略歴

陸軍大尉 金子武雄

年月日	概要
昭二〇、三、三〇	軍令陸甲才十八号に換リ才九野戦補充隊復帰
	独立歩兵才五百三大隊編成下令
	編成業務着手
	中華民国湖北省陽新県陽新に於て編成完結
	大隊長陸軍大尉山崎巳春以下(將校四〇、準士官三、下士官一三三、兵一〇六八) 一、二四四名
自 三、三〇	陽新に於て同地附近の警備
至 八、一三	
三、三〇	大隊長陸軍大尉 山崎巳春
七、二六	大隊長陸軍大尉 金子武雄
八、一四	停戦詔書発布
八、一八	復員下令
九、二	停戦協定締結
九、一四	江西省南昌県南昌に於て南潯地区停戦協定
一〇、二	移駐の爲陽新出発

3内 中文(その四)

年月日	概要
昭三〇、一〇、一三 二一、五、二三	江省省彭沢県馬橋鎮到着 馬橋鎮出港
六一六	内地帰還の為上海港出帆
六一七	浦賢港上陸
六一九	除隊(召集解除)一、〇一七名

独立混成第百十四旅団略歴

年月日	概	要
昭二〇、三、二〇	昭和二十年軍令陸甲才十八号独立混成才八十四旅団砲兵隊編成下令 編成業務着手	
中華民國江西省九江に於て	編成完結	
砲兵隊長 陸軍少佐 松岡玄逸	以下將校一九名 下士官五四名 兵四九八名	
自 三、二〇 至 六、二一	崑崙山砲中隊を編成裏樞作戦参加	
自 六、一 至 六、三〇	警備地区内討伐二回	
八、一四	停戦詔書発布	
八、一八	復員下令	
九、二	停戦協定締結	
九、二九	移駐の爲九江出発	
一〇、三	江西省彭沢着	
二、五、二四	内地帰還の爲の彭沢出発	
六、一五	上海港出帆	

	年月日
	昭三、大、ニニ 大、 復員 上陸(博多) 概 要

(132)

0145

年月日	昭二〇、三、二〇
概	<p>軍令陸甲カ十八号に依リカ九野機補充隊復帰          独立混成才八十四旅團縮成下令          縮成業務着手</p>
要	<p>中華民國江西省九江景九江に於て独立混成才八十四旅團工兵隊縮成完結          工兵隊長 陸軍少佐 菅原孝一 以下將校一〇名 准士官二名 下士官三二名 兵五四四名</p> <p>縮成要員トシテ才三十七師團より初年兵一五五名転入          縮成要員トシテ独立混成才八十四旅團野砲隊より井田兵長以下一〇五名転入          坂又軍曹以下七名沈船引上作業</p> <p>才一三二師團工兵隊に転属のタリ大森中尉以下六三名転出          中島伍長以下三〇名陽新五里橋補強作業          越中尉以下六〇名白水渡補強作業</p>
至	八、六
自	六、一
至	四、二一
自	四、二九
至	五、一四
自	六、一
至	四、二一
自	四、二八

独立混成第八十四旅團  
 縮成業務  
 陸軍少佐 菅原孝一

陸軍少佐 菅原孝一

年月日	概	要
自昭二〇、七、六 至 九、一四	宮本見習士官以下六八名南昌附近波航作業	
八一四	停航詔書発布	
八一八	復航下令	
九、二	停航協定締結	
一〇、四	中華民国江西省九江果九江出航	
一〇、六	中華民国江西省彭沢果馬樟鎮着同地に駐屯	
一〇、二二	鉄道才一聯隊材料廠より山崎營長以下三〇名転入	
一一、五、二三	中華民国江西省彭沢果馬樟鎮出航	
五、二四	中華民国江西省彭沢果彭沢出航	
五、二六	中華民国江蘇省南京着同地に駐屯	
五、二七	中華民国江蘇省南京出航	
五、二九	中華民国江蘇省上海着同地に駐屯	
六、一五	中華民国江蘇省上海出航	
六、三一	鹿尾島港上陸	

内

中支(之四)

(134)

0147

独立混成第八十四旅團 独立混成第八十四旅團通信隊 啓歴

年月日	概	要
昭一九、二、五	特務隊ヲ三十七号により臨時編成下令	
三、一	滿州国龍江省富拉爾基に於て才九野戰補充隊旅團通信隊編成完結	
三、一〇	隊長 陸軍中尉 永住三郎以下將校三名 准士官一名 下士官六名 兵九九名 合計一一〇名	
三、三一	富拉爾基出發	
三、三一	中華民國江西省九江着同地附近警備	
五、三	才六十八師團通信隊に兵三八名転属	
六、三	歩兵才二一七聯隊補充要員より兵九名転入	
九、一〇	補充要員下士官二名 兵九八名入隊	
九、二一	才八十一兵站地区隊本部要員より兵二八名転入	
一〇、二二	才六十八師團補充要員より兵六名転入	
二〇、一、一	才三十七師團より下士官一名 兵四名転入	
一、三五	才百四師團補充要員より兵二七名転入	
三、二〇	昭和二十年軍令陸甲才十八号に依り才九野戰補充隊復歸	
	独立混成才八十四旅團通信隊編成完結 隊長 陸軍中尉 永住三郎以下將校三名 准士官一名、下士官一四名、兵	

年月日	概要
昭二〇、三、三〇	一八九名、計二〇八名
八一四	中華民國江西省九江に於て停戦
八一八	復員下令
九、二	停戦協定締結
一〇、二〇	現地除敵車 下士官一名 兵二名
一一、五、三	中華民國江西省彭沢眼馬橋に移駐
六一五	内地帰還の爲馬橋出発
六一五	上海出帆
六二八	佐世保港上陸

(136)

0149



独立混成第八十五旅團司令部略歴

年月日	概要
昭一九、一、九	<p>カ十野戦補充隊編成下令せらる(陸西根密才四〇号)          歩兵カ七騎連に於て編成完結す          編成左の如し</p> <p>カ十野戦補充隊本部</p> <p>同 カ一大隊          同 カ二大隊          同 カ三大隊          同 カ四大隊          同 カ五大隊          同 カ六大隊          同 カ七大隊          同 砲兵隊          同 工兵隊          同 通信隊</p> <p>補才十野戦補充隊長 陸軍少将 下川義忠          中国派遣の兵の満州牡丹江出發</p>
三、二七	

(137)

0150

年月日	概	要
昭一九三、一八	湖北省志隊果志隊に到着。同地附近の警備に任ず	
四、一九	才十野隊補充隊長狩人症により軟弱死	
四、二二	才十野隊補充隊長 陸軍少尉 松井節	
二〇、三、二〇	昭和二十年三月二十日軍令陸甲才十八号に依り独立混成才八十五旅團縮成下令 同日完結	
	独立混成才八十五旅團長 陸軍少将 松井節	
	縮成部隊左の如し	
	独立混成才八十五旅團司令部	
	独立歩兵才五〇四大隊	
	独立歩兵才五〇五大隊	
	独立歩兵才五〇六大隊	
	独立歩兵才五〇七大隊	
	独立歩兵才五〇八大隊	
	独立混成才八十五旅團砲兵隊	
	独立混成才八十五旅團工兵隊	
	独立混成才八十五旅團通信隊	
六、九 八、二四	陸軍少佐丸山昌以下二一五名本土兵補要員として内地部隊に帰還す 待戦詔書発布	

5内 中文 (ハシの四)

八、二五	復員下令
九、二	停戦協定締結
一〇、一一	才六教区才四官共管理所に収容
二、四、二七	内地帰還のため湖北省に疎果出発
五、一〇	上海に集中す
六、二七	上海出発

(139)

0152

独立混成隊第八十五旅團司令部略歴

陸軍少将 松井 節

年月日	概 要
昭二〇、三、一〇	軍令陸甲才十八号に依り才十野戦補充隊復帰完結
三、六、二五	独立混成隊第八十五旅團編成完結
六、二七	独立混成隊第八十五旅團司令部の一部として陸軍中尉木村繁則以下六〇名(将校一、下士官三、兵五六)特別輸送艦海才八十五号に乗船、上海港出発
六、二九	佐世保に到着
七、一	船内に於て検便を実施
七、二	鹿児島港に向い廻航のため佐世保港出発
七、四	鹿児島港に到着
七、七	鹿児島島上陸 内地帰還者六十名
	木村中尉以下三名 残務整理終了帰郷